

# 紀伊水道域のマエソ属について

## (I) 種類と名称\*

多々良 薫

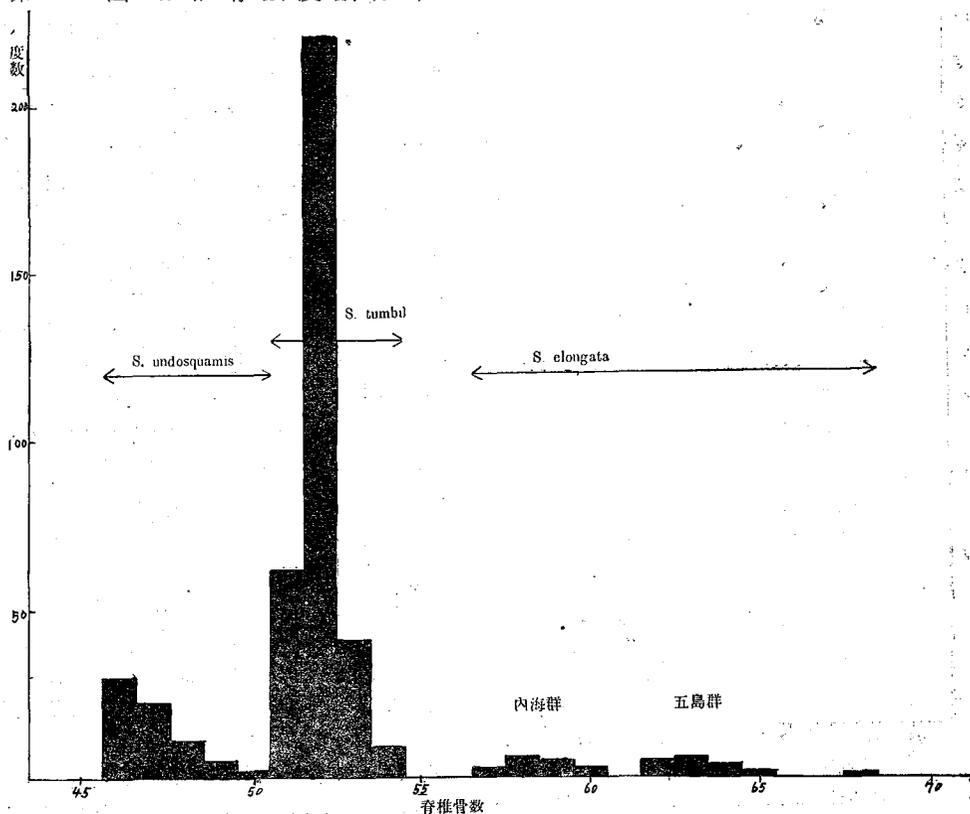
### (1) 種類

マエソ属 (*Saurida*) は暖海性の底魚でその分布範囲は日本の中部以南の沿岸、支那東海、南支那海から印度洋に及ぶことが知られている。<sup>(1), (2), (3), (4), (5) \*\*</sup>

日本近海で見られるものは、(1) *Saurida undosquamis* (Richardson) (2) *Saurida argyrophanes* (Richardson) syn. *Saurida tumbil* (Bloch) (3) *Saurida elongata* (Temminck et Schlegel) の3種であって、支那東海、南支那海等の外洋では *Saurida tumbil* が多く、瀬戸内海等沿岸水域には *Saurida undosquamis*, *Saurida elongata* が多い。多々良 (1949) は支那東海の底曳漁場で漁獲された *S. tumbil*, 五島近海で得た *S. undosquamis*, *S. elongata*、瀬戸内海西部から得た *S. elongata* 及び山陰沿岸仙崎で得た *S. elongata* について形態的特徴を調べた諸点を明かにした。即ち

学名	吻端	側線鱗数	鱗	胸 鰭	尾 鰭 柄	雄の背鰭条	背椎骨数
<i>S. undosquamis</i>	稍丸尖	?	極めて落ち易し	腹鰭基に達す	縦扁せず		46~50
<i>S. tumbil</i>	稍尖	51~60	少々落ち易し	同上	同上	伸長す	51~54
<i>S. elongata</i>		63~67	落ち易くない	達しない	縦扁す	伸長せず	57~68

第1・1図 背椎骨数度数分布



\* 内海区水産研究所業績 第22号

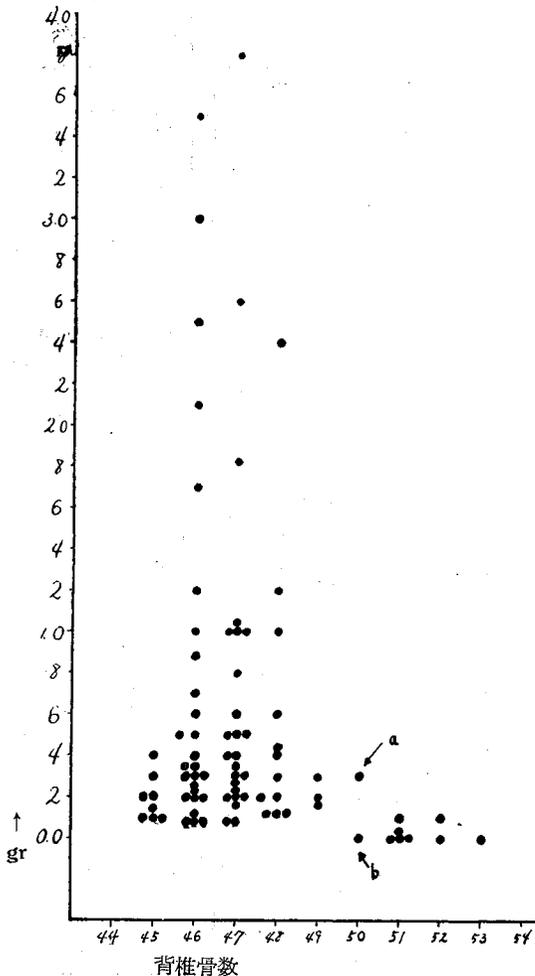
\*\* 参考文献は「(III) ホシエソの年令について」の後に一括記転する。

而して3種は種々の形態的特色で判別出来るが、最も簡単で確実には背椎骨数を算定する事に依るとした。その際調査した44尾の背椎骨数(尾部棒状骨を算定せず)は1・1図の通りであり図の様に3種を分けた。

松原(1951)<sup>(2)</sup>はこの3種について、外部形態、内部形態及び骨格等について細密な調査を行い、側線鱗数、背椎骨数、Predorsal scales, pyloric caeca, その他の特徴で判別出来るとした。而して *S. undosquamis* と *S. tumbil* は背椎骨数分布で必ずしも分離せず、側線鱗数では明らかに分離するとした。いずれにしても、この3種が形態的に類似している事は確かであり、特に、*S. undosquamis* と *S. tumbil* は極めて類似点が多い、そのため或る測定値のみを以て同定する場合は紛らわしい場合も起ると考えられる。

紀伊水道調査で1951年7月から1952年7月までに精密測定したマエソ属は総計9,903尾に上るが、その性別、月別背椎骨数分布は1・1表の通りであり1・2図に棒状グラフで画いた。この調査では第2図で見る様に背椎骨数50の個体は相対的に極めて少く全部を通じて9個体であったが、この判別には同時に漁獲された両魚種の背椎骨数の分布から明らかなる場合があるし、又1・3図の様に背椎骨数と生殖腺重量の関係をプロットして、例えば(a)は *S. undosquamis* に(b)は *S. tumbil* に判別出来る場合もある。然し厳密さが

第1・3図 生殖腺重量と背椎骨数



1952: 6月15日 徳島外域の資料による  
 a: 6月20日 No. 3 播磨灘の標本  
 b: 6月15日 No. 4 紀伊水道の標本

要求される場合は松原<sup>(2)</sup>に依るべきであろう。

1・1表からも分る様に調査した水域では *S. tumbil* が極めて少い事が分ると同時に、*S. undosquamis* では先に調べた五島近海の資料の平均値が、46.9個であるのと大体良く一致するが、*S. elongata* ではモード58個の群のみで内海西部の群と背椎骨数では同じであることが分る。

この内海の群と五島近海で見られるモード63個の群は明らかに地理的に隔離された種族と考えられるが、モード58個の種族を内海型、モード63個の種族を五島型と呼ぼう。山口県仙崎で得た一尾は58個であり、松原<sup>(2)</sup>が若狭湾の資料に依ったものも大体同じモードの群と考えられるので山陰沿岸も内海型の種族が分布しているものと思われる。又背椎骨数68個の1個体は昭和22年12月4日福岡港に入港した底曳漁船第3住吉丸が主に農林漁区525区で操業した漁獲物の中から採集された標本に依るものである。然し525区は支那東海で最も陸地に遠い海域であり、*S. elongata* の分布を考えると525区で漁獲されたものとは思われない。

## (2) 名 稱

日本で漁獲されるエソ類の殆んど90%近くは *S. tumbil* で主に支那東海黄海底曳漁業で漁獲される。始めてマエソ属の資源について考察したのは笠原(1948)<sup>(3)</sup>であるが、その際笠原は支那東海黄海で漁獲されるエソの学名を *Saurida argyrophanes* とし和名をマエソとした。この魚種が *Saurida argyrophanes* of Günther ではなく *Saurida argyrophanes* (Richardson) である事は明かで、

*Saurida tumbil* (Bloch) と異名同一魚種である事も明かである。底曳漁業ではこの魚種をマエソと呼んでいる。日本産魚類図説<sup>(8)</sup>の PLATE 22 に依ると、和名マエソ学名 *Saurida argyrophanes* (Richardson) でありその記載は *Saurida tumbil* (Bloch) syn. *Saurida argyrophanes* (Richardson) と思われる。一方、日本産魚類検索はマエソ属を前記3種に分類してあるが、記載は紛らわしい様でそれによる種の同定は困難の様に見える。\*

支那東海黄海のマエソ属の研究に際し多々良<sup>(6)</sup>(1949)は *S. tumbil* (Bloch) の名称を笠原が用いた様にマエソとし、その他 *S. undosquamis* をホシエソ *S. elongata* をミツエソと呼んだ。

瀬戸内海のマエソ属の研究に於いてもその名称を踏襲し、その同定には主に背椎骨数に依った事は前述の通りである。以上の学名と名称について表を作ると、次表の様になる。

学名	<i>Saurida undosquamis</i> (Richardson)	<i>Saurida tumbil</i> (Bloch) Syn. <i>S. argyrophanes</i> (Richardson)	<i>Saurida elongata</i> (Temminck et Schlegel)
日本産魚類図説		マ エ ソ	
日本産魚類検索※(1)	マ エ ソ	ワニエソ(新称)	ト ガ ゲ エ ソ
笠原論文		マ エ ソ	
支那東海黄海資源調査※(2)	ホ シ エ ソ	マ エ ソ	ミ ツ エ ソ
紀伊水道域資源調査	ホ シ エ ソ	マ エ ソ	ミ ツ エ ソ
瀬戸内海西部(俗称)		ガ ラ エ ソ	マ エ ソ

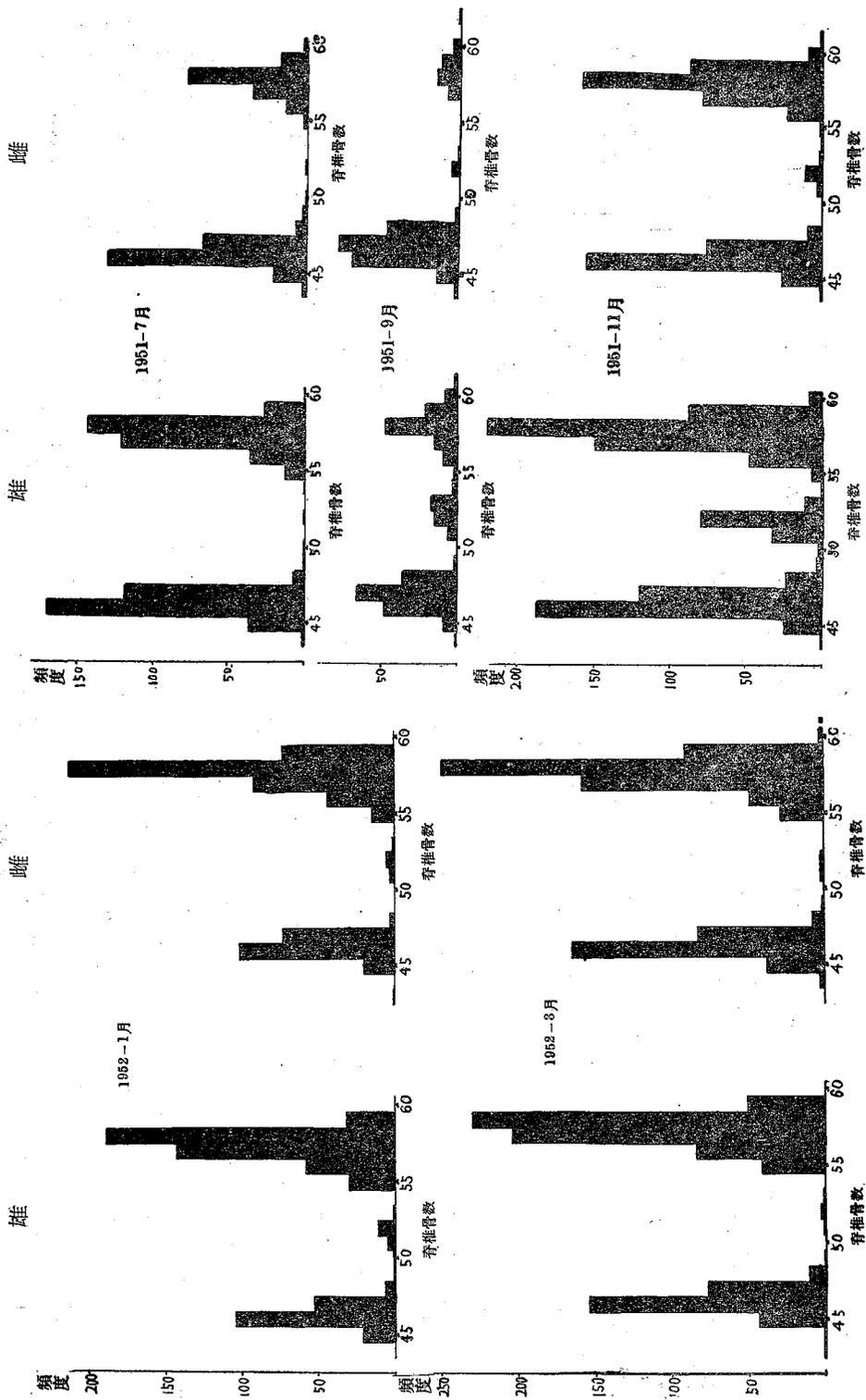
(注意) ※(1) 学名と和名を対応させた、記載については考慮していない。

※(2) 西海区水研の報告の中でマエソ *Saurida undosquamis* となっているのは明かに *S. tumbil* Syn. *S. argyrophanes* であろう。

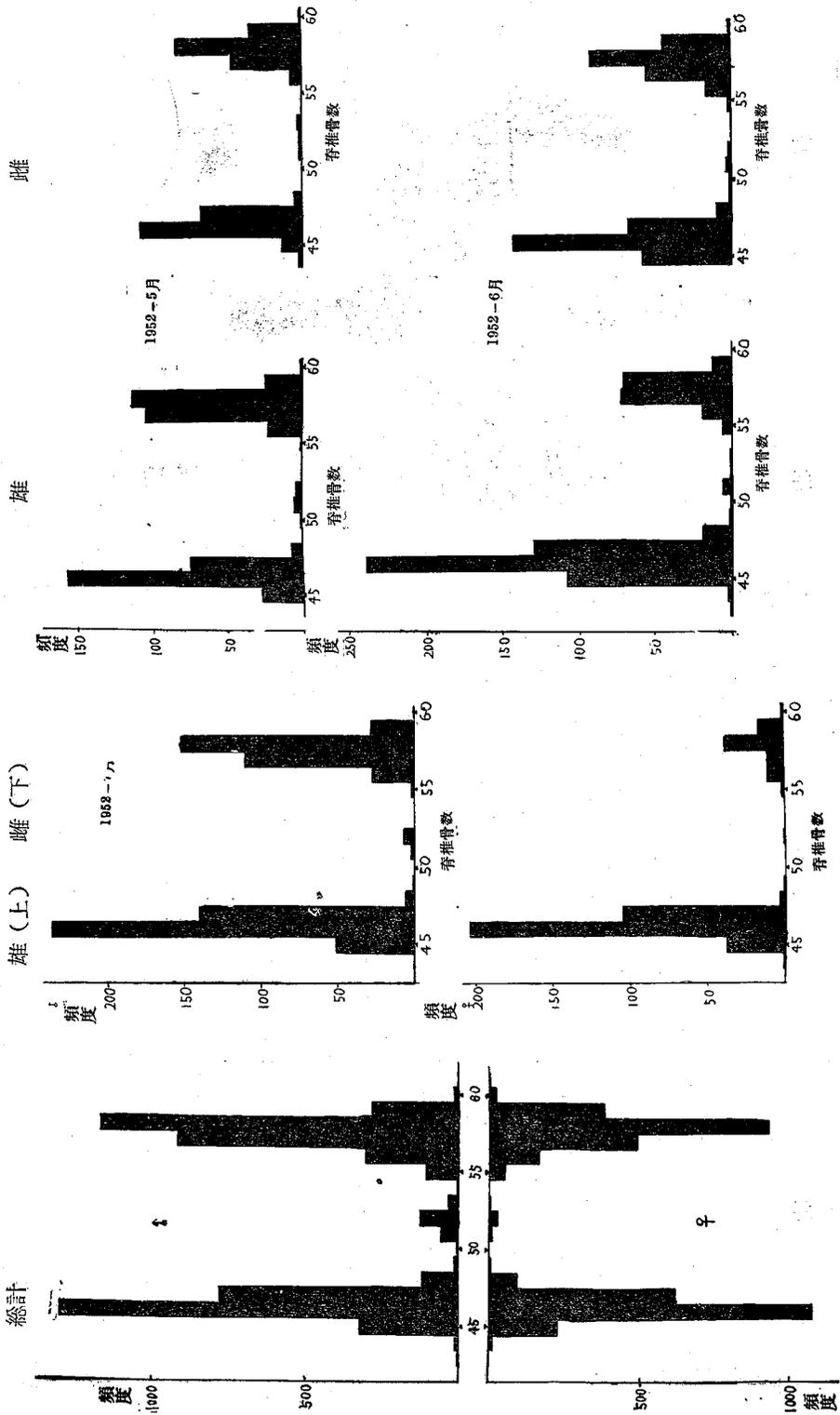
\*この点は、松原1951<sup>(2)</sup>で詳細な研究があることは前出の通り。



第1・2図 月別性別別脊椎骨度数分布



第1・図の続き



正 誤 表

頁	行	誤	正
9	Table 6 Mysis 下4, 6	○	○
13	Fig 9の説明	mâtrre	mature
18	摘要14上1	異 する	異にする
22	上20	違反船	*違反船
23	上 3	季節的	季節的
24	上16	Houttuyn	(Houttuyn)
"	上17	Jordan et Thompson	(Jordan et Thompson)
"	上18,21,23	Temminck et Sehlegel	(Temminck et Schlegel)
"	上19	Richardson	(Richardson)
"	上20	Bloch	(Bloch)
"	上22	Forskai	(Forskai)
25	上18	Houttuyn	(Houttuyn)
"	下14	Jordan et Thompson	(Jordan et Thompson)
"	下 8	Bloch	(Bloch)
"	"	Richardson	(Richardson)
"	下 7	Temminck et Schlegel	(Temminck et Schlegel)
26	上14	Temminck et Schlegel	(Temminck et Schlegel)
"	上19	Ⅲ・Ⅳ 群	Ⅲ・Ⅳ才群
"	上20	香川県の桝網	香川県の桝網* *田中小治郎, 1952, 昭和26年度東讃 海区春桝網タイ漁況の変動原因調査報 告, 香川県水産試験場事業報告
"	下21	Forskai	(Forskai)
"	下11	Temminck et Schlegel	(Temminck et Schlegel)
33	上 7	S_tumbil	S. tumbil
"	下 1	記転	記載
34	上12	然し厳密さが	然し更に厳密さが
35	(注意※-2)	西海区水研の報告	西海区水研, 以西底魚資源調査報告, 1951.
37	第1.2図	月別性別背椎骨度数分布	月別性別背椎骨度数分布
39	上 3	Saurida undosquamis	Saurida undosquamis
41	上 6	モード10	モード10
"	"	の50年級	の50年級
"	上12	高年魚も割合	高年魚の割合も
50	上16	形成れる	形成される
"	下 6	便宜上	便宜上
54	下10}	R/R	R/R'
"	下12}		
61	題目	ミツエソ Saurida elongataについて	ミツエソ Saurida elongata (Temminck et Schlegel)
"	上 5	漁獲尾数 (第一表)	漁獲尾数 (第一表40頁参照)
70	参考文献	支那東海黄海の底曳網漁業と 其資料 笠原晃	支那東海黄海の底曳網漁業と 其資源 笠原晃

頁	行	誤	正
75	上 4	Scia enidae	Sciaenidae
"	上 4	Nibe <sup>a</sup> argenta	Nibe <sup>a</sup> argentata
"	上18	産卵群について	産卵群において
76	上 1	意味づけ	意味づけ
78	Fig 3 説明	1952—1月	1952—3月
"	"	1951—6月	1951—11月
79	上 2	20mm少さく、分解した成分では、	20mm少さく、分解した成分では
"	上20	これは更に 11月におい	これは更に11・1月におい
"	上24	Eig 5	Fig 5
"	下 5	冬季期に	冬季に
81	上26	r <sup>1</sup> 変異の巾が みられるのと、	r <sup>1</sup> に変異の巾が可成みられるのと、
82	上 4	… 制断した。	判断した。
"	上 6	反影	反映
"	上16	… 個体を隠き、	… 個体を除き
"	Table 4	6   ~1.8	6   ~0.5
83	上 3	GM/(TL) <sup>3</sup>	GW/(TL) <sup>3</sup>
85	上13	… 可成広い範囲で行われるものと…	… 可成広い範囲にあるものと…
"	下14	反影	反映
"	下10	現在ここで取上げたものには、	現在ここで取上げたものは、
"	"	多様性と肥満度	多様性を肥満度
"	下 8	… と予想される。発生後は…	と予想され発生後は…
"	下 5	… 且異質でない…	… 且異質でない…
"	下 4	… 同義語でないことは…	… 同義語でないことは…
86	上4~5	{即ち生態的不均等さの検出の場 {合がそれに該当する。}	トル
"	上17	… 平均漁獲 数…	平均漁獲尾数
"	上22~23	{少くとも (Fig   ) にかがけた}	トル
87	上 9	a) 月, 海区	「月海区」
"	上22	… 魚群の均一性が…	魚群の均一性が…
"	下 8	月, 海区	「月海区」
88	上 2	背鳍軟条数の一平均値	背鳍軟条数の平均値
"	上 3	平均値が25.5以上	平均値が25.5以下
"	上11	夫々の季	夫々季
"	Table 10	季節   4	季節   4*
"	"	(欄外)	{* 51年9・11月, 52年6・7月は} {夫々合併}
"	下 3	… 体重による…	… 体長による…
89	Table 12 説明	(シログチ1951年級 51年1月)	(シログチ1951年級 52年1月)
"	上 4	… 作ること (Table 12)	… 作ること (Table 12)
"	Table 13最右行	性比	性 比 ♀ (%)
			45
			48
			56
			56
			55
			60
			62
			52

頁	行	誤	正
90	上12	…はじめに資料は…	…はじめの二資料は…
"	上18	最少限度21.1~	最少限度25.1~
"	下10	…可能精 <sup>も</sup> も考えら	…可能性 <sup>から</sup> も考えら
91	上*3	形質の変異は	形質は
"	上 4	形質の変質の…	形質の変異の…
93	(題目)	Nibe nibe Temminck et Schlegel	Nibe nibe (Jordan et Thompson)
"	第1図	1952—1月 —大阪湾	雄 1952—1月 —大阪湾 雌
94	下 9	$R=0.3277+0.01485L$	$R=11,1035+0.297L$
95	上 2	平均をとると, $\bar{L}$ で3.2mm	$r'$ で3.2mm
"	下 3	大体分離している。るものと思われる	大体分離しているものと思われる
99	上 9	$(G.W)/(T.L)^3$	$G.W/(T.L)^3 \times 10^6$
"	第6図 (体長目盛)	360, 480, 400	360, 380, 400
100	第7図	$\frac{G.W}{(T.L)^3}=0.1$	$\frac{G.W}{(T.L)^3} \times 10^6=0.1$
"	"	$\frac{G.W}{(T.L)^3}=4.0$	$\frac{G.W}{(T.L)^3} \times 10^6=4.0$
"	下 4	11相当数	11月に相当数
"	参考文献	支那東海の底曳網漁業と其資源	支那東海黄海の底曳網漁業と其資源
101	表題	T. & S.	(Temminck et Schlegel)
"	上 2	"	"
"	下12	尾鱗基部	尾鱗叉部 (Fork length)
"	下 7	長サ (fm)	長サ (rm)
102	上 5	最終輪 (Vmax)	最終輪 (rmfmax)
"	上19	11.3	11.3
103	註1)	マダイの Saock	マダイの Stock
104	第4図体長目盛	100, 200, 200	100, 200, 300
"	下 3	1 <sup>5</sup> (満4才)	1 <sup>5</sup> (満4才)
107	(題目)	(Forsk.)	(Forsk.)
110	上 2	をm群とし, 兩群	をm群とし, 1952年7月(112頁)の兩群
112	2.1.2 図の5	(雌雄が逆)	
"	下 5	50~100%	50~60%
"	下5	7月になって だけが	7月になって雌だけが
114	2.2.2 図	(体長, 体重の図の卵数の単位は10万)	
119	下 4	その混合等に	その混合に
"	下 3	9月12日, 第四網大阪湾…	9月12日第四網, 大阪湾…
121	図	Fig 3 イボダイの体長組成の分解	Fig 4
123	上25	(Fig 3)	(Fig 4)
"	下 8	…範囲が広いためか…	…範囲が広いためか…
124	下 3	…30~40mmに及び…	30~40mmに及び…
"	下 4	…多いが, 体長が100mmに…	…多いが, 厩次体長が100mmに…